

いちばん大切なこと

校長 館岡 靖哲

新緑が目眩しい季節となりました。早いもので、新年度が始まって1ヶ月が過ぎ、生徒たちは新しい環境での生活や学習が本格的に始まりました。放課後には本入部となった1年生を加えて、3学年がそろっての部活動が展開され、輝く笑顔が溢れ、元気な声も響き渡っています。5月23日（金）には、体育祭が予定されており、体育の授業では体育祭に向けた練習が始まっております。熱心に練習に取り組む様子を見てみると、生徒が主体となってどのような体育祭を創り上げてくれるのか、本当に楽しみです。保護者・地域の皆様のご来場もお待ちしております。

ところで、昨年度の後半より、職員室前のホワイトボードに掲示物が加わりました。それは、前教頭が毎日作成し、掲示していた偉人や著名人が残した名言、格言です。私も毎日読ませていただきました。今年度は校長が引き継ぎ、職員室前に加えて生徒用昇降口にも掲示しております。実際に毎日作成していると、実に多くの名言や格言、加えて心に響く言葉に出会います。ここでは、『いちばん大切なこと（ドロシー・ロー・ノルト）』を取り上げてみたいと思います。ドロシー（1924年1月12日生まれ。ロサンゼルス出身）は世界各国で愛読された大ベストセラー『子どもが育つ魔法の言葉（1999年 PHP研究所）』の著者として知られ、40年以上にわたり子育てを説き、悩める親たちを励まし続けました。2005年に来日した際、公立小学校の特別授業で「いちばん大切なこと」という詩を児童向けにつくりました。この詩の中には、ドロシーが考える、生活していく上で大切なことが書かれています。紹介いたします。

16の「大切なこと」

- ①「順番を守ること」 ②「自分の役割を果たすこと」 ③「人の役に立つこと」
- ④「やると言ったことをやること」 ⑤「人といっしょにいる時間を大切にすること」
- ⑥「ルールを守ること」 ⑦「自分にできることだけを約束すること」
- ⑧「やり始めたことは最後までやりとげること」 ⑨「本当のことを話すこと」
- ⑩「家族を思う気持ちを伝えること」 ⑪「間違いや失敗から学ぶこと」
- ⑫「人の過ちを許してあげること」 ⑬「正しいことをすること」
- ⑭「自分の体を大事にして体によいことを実行すること」
- ⑮「最高の自分になるためのことは惜しまずやること」
- ⑯「自然の美しい世界をしっかりと見つめること」

ドロシーは、この16の「大切なこと」の後に必ず「そして、胸をはれる自分になりましょう」とつけ加えています。例えば、「ものには順番があります／自分の順番がくるまで待ちましょう／そして、胸をはれる自分になりましょう」となります。それでは、胸をはれる自分になるためには、どのようにしていけばよいでしょう。それは、皆さん一人ひとりで違います。生徒の皆さんも、自分にとって「大切なこと」は何かを考え、日々そのことを意識して生活してください。そして、胸をはれる自分になり、本校を巣立ってほしいと思います。